

「2020年9月短観（茨城県）」の解説

【判断D.I.】

- 業況判断D.I.は、製造業、非製造業ともに改善し、全産業では「悪い」超幅が縮小しました。
- 先行き本年12月までの予測では、製造業が引き続き改善する一方で、非製造業が再び悪化するため、全産業では「悪い」超幅がやや拡大すると見込まれています。

【事業計画】

- 2020年度の事業計画をみると、業績は、前年度対比「減収・減益」となる計画です。設備投資は、前年度を上回る計画となっています。

I. 判断D.I.

1. 業況判断

- 企業の業況判断D.I.は、製造業（前回 $\Delta 31$ →今回 $\Delta 28$ ）が8期振りに、非製造業（同 $\Delta 22$ →同0）が2期振りに、それぞれ改善したことから、全産業（同 $\Delta 27$ →同 $\Delta 13$ ）では8期振りに改善した。
 - 全国の動き（全国短観）をみると、製造業（前回 $\Delta 39$ →今回 $\Delta 37$ ）、非製造業（同 $\Delta 25$ →同 $\Delta 21$ ）ともに改善したことから、全産業（同 $\Delta 31$ →同 $\Delta 28$ ）でも改善した。
 - ◇ 県内の業種ごとの主な動きをみると、内外における新型コロナウイルス感染症の影響を受けている中、製造業では、非鉄金属、はん用・生産用・業務用機械、電気機械において、内外の経済活動が徐々に再開していくもとの、生産持ち直しに向けた動きがみられていることなどから、それぞれ業況が改善した。
 - ◇ 非製造業では、卸売、小売、電気・ガス、宿泊・飲食サービス等が、外出自粛や営業制限の緩和、堅調な巣ごもり消費および新商品・サービスの投入による売上の持ち直しなどから、それぞれ業況が改善した。
- 先行き2020年12月までの予測では、製造業（今回 $\Delta 28$ →先行き $\Delta 16$ ）が改善するものの、非製造業（同0→同 $\Delta 18$ ）が悪化し、全産業でも悪化（同 $\Delta 13$ →同 $\Delta 17$ ）が見込まれています。

2. 需給・在庫・価格判断

- 国内での製商品・サービス需給判断（全産業）は、製造業、非製造業ともに「供給超過」幅を縮小したことから、全産業でも「供給超過」幅が縮小した（前回 $\Delta 32$ →今回 $\Delta 26$ ）。先行きについては、「供給超過」幅の縮小を予測（今回 $\Delta 26$ →先行き $\Delta 25$ ）。
- 海外での製商品需給判断（製造業）は、「供給超過」幅が縮小した（前回 $\Delta 42$ →今回 $\Delta 28$ ）。先行きについては、「供給超過」幅の縮小を予測（今回 $\Delta 28$ →先行き $\Delta 11$ ）。
- 製商品在庫水準判断（全産業）は、「過大」超幅が縮小した（前回 27 →今回 17 ）。
- 仕入価格判断（全産業）は、「上昇」超幅が拡大した（前回 5 →今回 16 ）。販売価格判断（全産業）は、「下落」超幅が縮小した（同 $\Delta 13$ →同 $\Delta 5$ ）。先行きについては、仕入価格判断（全産業）が、「上昇」超幅の拡大を予測（今回 16 →先行き 21 ）。販売価格判断（全産業）は、「下落」超幅の拡大を予測（同 $\Delta 5$ →同 $\Delta 8$ ）。

3. 設備・雇用人員判断

- 生産・営業用設備判断（全産業）は、「過剰」超幅が縮小した（前回 10 →今回 4 ）。先行きについては、「過剰」超の解消を予測（今回 4 →先行き 0 ）。
- 雇用人員判断（全産業）は、「不足」超幅が拡大（前回 $\Delta 2$ →今回 $\Delta 6$ ）。先行きについては、「不足」超幅の拡大を予測（今回 $\Delta 6$ →先行き $\Delta 12$ ）。

4. 企業金融関連判断

- 資金繰り判断（全産業）は「苦しい」超を解消した（前回 $\Delta 5$ →今回 0 ）。金融機関の貸出態度判断（全産業）は「緩い」超幅が拡大した（同 10 →同 15 ）。この間、借入金利水準判断（全産業）は「低下」超幅が拡大した（同 $\Delta 1$ →同 $\Delta 5$ ）。

Ⅱ. 事業計画

1. 売上高

- 2020年度の売上高は、製造業（前年度比 $\Delta 11.7\%$ ）、非製造業（同 $\Delta 1.5\%$ ）ともに減収となり、全産業（同 $\Delta 7.0\%$ ）でも減収となる計画（前回調査から $+0.4\%$ の上方修正）。

—— 製造業、非製造業、全産業ともに2020年度計画を含め3年連続の減収。

2. 経常利益

- 2020年度の経常利益は、製造業（前年度比 $\Delta 51.0\%$ ）、非製造業（同 $\Delta 6.9\%$ ）ともに減益となり、全産業（同 $\Delta 19.9\%$ ）でも2年振りの減益となる計画（前回調査から $\Delta 7.0\%$ の下方修正）。

3. 設備投資額

- 2020年度の設備投資額（ソフトウェアを含む<除く土地投資額>）は、非製造業（前年度比 $\Delta 11.7\%$ ）が減少の一方、製造業（同 $+42.4\%$ ）は増加となり、全産業（同 $+24.8\%$ ）でも2年振りの増加となる計画（前回調査から $\Delta 2.2\%$ の下方修正）。

以 上

(参考)

茨城県と全国の業況判断D. I. (全規模)の推移

